

# 今治さくららの物語 唐子浜

「唐子」という地名の由来は藤堂高虎が今治城を築城した江戸時代にまで遡る。今治城の建築資材を得るために桜井の国府山城を解体した高虎はその城跡に松を植えた。その松の枝ぶりが当時の瀬戸物に絵付けされる唐の子供の頭に似ていたことから「唐子」と呼ばれるようになったとされる。ここ唐子を代表する美しい景勝地が、瀬戸内海国立公園に指定されている唐子浜である。沖に目を向けると、唐子浜の景観を象徴する「赤灯台」が見える。赤灯台は明治 35 年に来島海峡に建てられた日本で 5 番目の西洋式灯台で、当時は「鴻の瀬灯標」と呼ばれていた。その役目を終えると一時は解体される計画が立ったが、住民たちの惜しむ声に応じて昭和 53 年に現在の場所に移築された。その海岸沿いにはレンガ造りのレトロな建物をみつけることができる。これは赤灯台と同時期に建てられた大浜灯台の灯台吏員退息所を移築したものである。これらの建物は今治の近代化遺産として今日も地域の人々によって大切に保存されている。

桜井地区地域水産業再生委員会 × 愛媛大学井口梓研究室

# あか か た じ い